



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年11月14日

上場会社名 株式会社アルマード 上場取引所 東
 コード番号 4932 URL <https://www.almado.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保科 史朗
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 藤 博雅 TEL 03(4334)1126
 半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	5,261	29.1	△692	—	△688	—	△478	—
2025年3月期中間期	4,074	8.7	△157	—	△159	—	△111	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	△51.78	—
2025年3月期中間期	△12.03	—

- (注) 1. 2025年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。
 2. 2026年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	4,967	822	16.5
2025年3月期	4,721	1,873	39.7

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 822百万円 2025年3月期 1,873百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	65.00	65.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	65.00	65.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	18.0	1,050	11.0	1,038	10.9	720	10.8	77.72

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年3月期中間期	10,394,000株	2025年3月期	10,394,000株
2026年3月期中間期	1,140,489株	2025年3月期	1,163,988株
2026年3月期中間期	9,238,230株	2025年3月期中間期	9,246,652株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策効果により緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、原材料や商品の調達コスト上昇、物価高の継続、米国通商政策や地政学的リスクなど不確定要素も多く、個人消費の伸び悩みや節約志向の強まりが見られるなど、先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような状況において、当社は3つの経営ビジョンの下（※1）、卵殻膜を配合したメンズスキンケア商品のTVCMを放映したことで、直販（EC）においては過去最高の新規顧客獲得数及び定期会員数を記録し、売上高は前年同期比で増加しました。また、外販（一般流通）では、ドラッグストア及びバラエティショップ導入店舗数が拡大したことで、売上高は前年同期比で増加しました。一方、外販（OEM販売）では、一部商品の納品時期が後ろ倒しとなり、売上高は前年同期比で減少しました。TV通販は一部大型・中型番組が予算未達となったことで、売上高は前年同期比で減少しました。営業利益は、直販（EC）での新規顧客獲得数の増加を狙った広告宣伝費の積極的運用により、前年同期比で減少しました。

その結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高5,261,787千円（前年同期比29.1%増）、営業損失692,108千円（前年同期は157,056千円の営業損失）、経常損失688,669千円（前年同期は159,222千円の経常損失）、中間純損失は478,311千円（前年同期は111,268千円の中間純損失）となりました。

※1・先進諸国に到来する高齢化社会において、人々の健康、若さ、そして美しさの維持・向上による“生活の質”の向上という根源的なニーズに、“卵殻膜”を通じて貢献する。

- ・卵殻膜の多機能な効果及び効能を科学的に解明し、常にユニークで最高品質の商品開発にこだわり、それを世界に提供する。
- ・“卵殻膜”で、美容と健康分野において、新しい価値観を浸透させる。

なお、当社は卵殻膜ヘルスケア事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の開示は行っておりませんが、売上高の販売チャネル別の内訳は、以下のとおりであります。

販売チャネル	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)		当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)		増減額 (千円)	前年同期比 (%)
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)		
TV通販	486,595	11.9	400,271	7.6	△86,324	82.3
外販 (一般流通)	234,380	5.8	410,059	7.8	175,679	175.0
外販 (OEM販売) ※2	617,724	15.2	538,021	10.2	△79,703	87.1
直販 (EC)	2,735,821	67.1	3,913,434	74.4	1,177,612	143.0
合計	4,074,522	100.0	5,261,787	100.0	1,187,264	129.1

※2 OEM販売額のうち、インターネット販売を主としているOEM先への売上高

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間会計期間末の流動資産は4,479,545千円となり、前事業年度末と比較して49,999千円増加しました。これは主に、商品が76,012千円、貯蔵品が90,514千円、前払費用が228,301千円、未収還付消費税等が52,558千円増加し、現金及び預金が289,803千円、電子記録債権が140,641千円減少したことによるものです。固定資産は488,369千円となり、前事業年度末と比較して196,235千円増加しました。これは主に、ソフトウェアが3,893千円、繰延税金資産が210,622千円増加し、建物（純額）が1,398千円、敷金が13,205千円減少したことによるものです。

以上の結果、総資産は4,967,915千円となり、前事業年度末と比較して246,234千円増加しました。

(負債)

当中間会計期間末の流動負債は4,081,617千円となり、前事業年度末と比較して1,292,022千円増加しました。これは主に、買掛金が321,286千円、短期借入金が950,000千円増加し、未払法人税等が175,326千円、未払消費税等が1,670千円減少したことによるものです。固定負債は64,272千円となり、前事業年度末と比較して6,014千円増加しました。これは、退職給付引当金が6,540千円増加したことによるものです。

以上の結果、負債合計は4,145,890千円となり、前事業年度末と比較して1,298,037千円増加しました。

（純資産）

当中間会計期間末の純資産は822,024千円となり、前事業年度末と比較して1,051,802千円減少しました。これは主に、自己株式が27,817千円、繰越利益剰余金が1,078,262千円（配当金支払599,950千円、中間純損失478,311千円）減少したことによるものです。

（3）キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ、289,803千円減少し1,280,735千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前中間純損失688,669千円、棚卸資産の増加額166,526千円、前払費用の増加額212,686千円、仕入債務の増加額321,286千円、未払金の増加額187,894千円等により636,408千円の支出となりました（前年同期は1,090,657千円の支出）。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出4,690千円、無形固定資産の取得による支出9,132千円、敷金及び差入保証金の返還による収入10,989千円等により2,833千円の支出となりました（前年同期は45,276千円の支出）。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる収入1,200,000千円、短期借入金の返済による支出250,000千円、配当金の支払額599,950千円により349,439千円の収入となりました（前年同期は852,541千円の収入）。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、2025年5月15日付「2026年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から修正の必要性はないものと判断しております。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,570,538	1,280,735
電子記録債権	601,169	460,528
売掛金	721,386	763,193
商品	1,256,777	1,332,790
貯蔵品	190,324	280,838
前払費用	53,072	281,373
未収還付消費税等	-	52,558
その他	36,541	27,771
貸倒引当金	△264	△244
流動資産合計	4,429,546	4,479,545
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	39,074	37,676
工具、器具及び備品（純額）	51,834	53,260
リース資産（純額）	4,940	4,446
有形固定資産合計	95,849	95,383
無形固定資産		
商標権	625	500
ソフトウェア	25,331	29,225
ソフトウェア仮勘定	-	990
無形固定資産合計	25,957	30,715
投資その他の資産		
長期前払費用	43,410	37,937
繰延税金資産	75,152	285,775
敷金	51,753	38,548
その他	10	10
投資その他の資産合計	170,326	362,270
固定資産合計	292,133	488,369
資産合計	4,721,680	4,967,915

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	240,881	562,167
短期借入金	2,100,000	3,050,000
リース債務	1,107	1,041
未払金	180,197	369,063
未払費用	28,811	30,455
未払法人税等	175,879	553
未払消費税等	1,670	-
預り金	5,265	6,167
賞与引当金	41,281	47,295
その他	14,500	14,873
流動負債合計	2,789,595	4,081,617
固定負債		
リース債務	4,378	3,852
退職給付引当金	53,880	60,420
固定負債合計	58,258	64,272
負債合計	2,847,853	4,145,890
純資産の部		
株主資本		
資本金	110,000	110,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	21,752	20,394
資本剰余金合計	21,752	20,394
利益剰余金		
利益準備金	27,500	27,500
その他利益剰余金		
別途積立金	110,000	110,000
繰越利益剰余金	2,982,491	1,904,229
利益剰余金合計	3,119,991	2,041,729
自己株式	△1,377,917	△1,350,099
株主資本合計	1,873,826	822,024
純資産合計	1,873,826	822,024
負債純資産合計	4,721,680	4,967,915

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	4,074,522	5,261,787
売上原価	1,229,841	1,323,651
売上総利益	2,844,680	3,938,135
販売費及び一般管理費	3,001,737	4,630,243
営業損失(△)	△157,056	△692,108
営業外収益		
受取利息	123	1,358
敷金償却戻入益	-	12,505
雑収入	4,462	3,401
営業外収益合計	4,585	17,265
営業外費用		
支払利息	5,902	13,286
自己株式取得費用	759	396
為替差損	89	143
営業外費用合計	6,751	13,827
経常損失(△)	△159,222	△688,669
税引前中間純損失(△)	△159,222	△688,669
法人税、住民税及び事業税	265	265
法人税等調整額	△48,218	△210,622
法人税等合計	△47,953	△210,357
中間純損失(△)	△111,268	△478,311

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失 (△)	△159,222	△688,669
減価償却費	15,889	12,737
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	233	△19
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,144	6,014
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,818	6,540
受取利息	△123	△1,358
支払利息	5,902	13,286
売上債権の増減額 (△は増加)	△166,686	98,833
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△173,955	△166,526
前払費用の増減額 (△は増加)	△149,802	△212,686
前払金の増減額 (△は増加)	△1,032	△2,811
預け金の増減額 (△は増加)	△14,697	10,971
長期前払費用の増減額 (△は増加)	-	△1,020
仕入債務の増減額 (△は減少)	△169,864	321,286
未払金の増減額 (△は減少)	△31,560	187,894
未払費用の増減額 (△は減少)	△4,992	1,643
未払又は未収消費税等の増減額	△107,003	△54,229
その他	△1,548	19,183
小計	△947,500	△448,931
利息の受取額	123	1,358
利息の支払額	△6,742	△12,956
法人税等の支払額	△136,537	△175,879
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,090,657	△636,408
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△406	△4,690
無形固定資産の取得による支出	△7,700	△9,132
敷金及び差入保証金の差入による支出	△41,870	-
敷金及び差入保証金の返還による収入	4,699	10,989
投資活動によるキャッシュ・フロー	△45,276	△2,833
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,900,000	1,200,000
短期借入金の返済による支出	△300,000	△250,000
リース債務の支払による支出	△477	△590
自己株式の取得による支出	△99,930	-
配当金の支払額	△647,049	△599,969
財務活動によるキャッシュ・フロー	852,541	349,439
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△283,392	△289,803
現金及び現金同等物の期首残高	1,512,853	1,570,538
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 1,229,460	※ 1,280,735

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年7月29日に当社従業員に対し、譲渡制限付株式としての自己株式23,499株の処分を実施いたしました。これにより、資本剰余金が1,358千円減少し、自己株式が27,817千円減少しております。

この結果、当中間会計期間末において資本剰余金が20,394千円、自己株式が1,350,099千円となっております。

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金勘定	1,229,460千円	1,280,735千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	1,229,460千円	1,280,735千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社は、卵殻膜ヘルスケア事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

当社は、卵殻膜ヘルスケア事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。